

(別表3-3)平成14年度から平成24年度における経年分析結果(水質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質				
		河川域	湖沼域	河口域	海域	
[1]	PCB類	↓	↓	↓	↓	—
[2]	HCB	↓	—	—	↓	┘
[7]	クロルデン類					
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	—	—	—	—	↓
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	—	—	—	—	—
	[7-3] オキシクロルデン	—*	—*	X	—	X
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	—	—	—	—	—
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	—	↓	—	—	—
[11]	HCH類					
	[11-1] α -HCH	—	—	—	—	—
	[11-2] β -HCH	—	—	↓	—	—
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	↓	↓	↓	↓	↓
	[11-4] δ -HCH	—*	—	—	—*	X

(注1)単回帰分析等の統計学的手法による。手法の詳細は資料2-2を参照されたい(以下同様)。

(注2)「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「┘」は調査期間の後半で得られた結果が前半と比べ低値であることが示唆されたことを、「—」は経年的な減少傾向及び調査期間前期と後期との差について確認されないことをそれぞれ意味する。また、「X」は「不検出値(nd)が半数を超えて存在する年度がある」ために本分析法により経年分析を行うことが妥当ではないと判断されたことを意味する。なお、「*」はブートストラップ法において調査期間前期と後期との差が確認されないことを意味する(以下同様)。

(別表3-4)平成14年度から平成24年度における経年分析結果(底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質				
		河川域	湖沼域	河口域	海域	
[1]	PCB類	—	—*	—	—	—
[2]	HCB	—	—	—	—	—
[7]	クロルデン類					
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	↓	↓	↓	↓	↓
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	↓	↓	—	—	—
	[7-3] オキシクロルデン	┘	—*	X	—*	X
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	—	↓	—	↓	↓
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	↓	—	—	↓	↓
[11]	HCH類					
	[11-1] α -HCH	—	↓	—	—	—
	[11-2] β -HCH	—	—	—	—	—
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	—	—	—	—	—
	[11-4] δ -HCH	—	—	—	—	—

(別表3-5)平成 14 年度から平成 24 年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物		大気	
		貝類	魚類	温暖期	寒冷期
[1]	PCB 類	—	—	—	—
[2]	HCB	—	—	—	—
[7]	クロルデン類				
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	—	—	↓	↓
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	—	—	↓	—
	[7-3] オキシクロルデン	—	—	↓	—
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	—	—	↓	—
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	—	—	↓	—
[8]	ヘプタクロル類				
	[8-1] ヘプタクロル	—*	X	↓	↓
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド	—	—	—	—
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド	X	X	X	X
[11]	HCH 類				
	[11-1] α -HCH	↓	—	(対象外)	(対象外)
	[11-2] β -HCH	—	—	(対象外)	(対象外)
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	—	↓	(対象外)	(対象外)
	[11-4] δ -HCH	X	—*	(対象外)	(対象外)

(注1)鳥類に関しては、平成 22 年度の調査から検体数がウミネコとムクドリそれぞれ 5 検体であったものからそれぞれ 1 検体のみとなり、データ数が少ない中での変更が分析結果に影響を及ぼす恐れがあることから、統計的な分析の対象外とした。

(注2)大気のうち[11] HCH 類については、平成 20 年度以前の調査が欠測扱いとなったことから、統計的な分析の対象外とした。